

## 透析患者の社会復帰

市川 洋

### 序論

心身に障害をもつ人々は、医学的に“治る”だけではなく、再び社会の中で職を得て、家庭をきずき、社会的に“治る”心があり、医療機関は医学的に治すだけでなく、社会的に治るように努力している。透析の患者は医療費は高額であるが、社会的に“治る”可能性が高い。そこで透析患者がどのように社会復帰しているかを調査し、分析を行った。

実際の調査は職業を中心に行った。一般に調査票を詳細にして、かなり立ち入った事項についてまで聞き取りを実施すれば、深度のある調査になろう。しかしながら、そのような調査に協力してくれる人々は、社会復帰（以下「社復」と略称する）にある程度成功している場合が多いであろう。そういう人々のみを対象とする調査も必要であるが、それは別の機会にゆずり、ここでは1つのセンターと4つのサテライトをもつ、東京近郊の透析医療機関の全透析患者を調査対象とした。

調査はこの医療機関の職員によって行われた。医師、医事課職員、看護婦等による透析患者の職業調査が中心である。患者に直接職業の状況を聞いたわけではないので、不正確な部分があり得るのは止むを得ない。また、勤務の程度については、必ずしも十分な情報が得られたわけではない。例えば、自営の家業の手伝いをしているとしても、バリバリやっているのか、電話番くらいなのか、その辺りとなるとその把握は病院職員には困難な場合もある。以上のような理由から、今回の社復調査は職業調査が中心となった。

今回の調査においては、60歳以上の年齢層は職

業の調査を簡易なもので済ませた。この年齢層で職に就いている人々は透析患者の中にもいるのであるが、どの程度実質的に就業しているのかは、あまり明らかでない。また、高齢層の患者の場合は、身の廻りのことが自分で処理可能であるかどうかとも重要で、これは別な形式の聞き取り調査を必要とする。従って高齢層については、本格的な職業や自立程度の分析は別の機会にゆずることとした。

今回の調査による分析は、データを集計して作られた表から事実を読みとることと、個々のケースから帰納される事実の2つに分けられる。後者の接近方法から得られる情報はかなり有効と思われるので、ここで透析開始以後に勤務先に変更のあった男子26ケース、および社復に成功した例20ケース、合計46ケースを簡潔に記載して参考にすることとする。

### 用語の解説

職業調査は昭和56年3月末（前回）と昭和59年3月末（今回）の2回行われた。リストされた患者は、前回および今回のこの透析機関に在籍する透析患者全員である。この外に昭和56年3月末以後に在籍し、昭和59年3月以前に転医または死亡した患者（一時在籍）が71名いる。以下本研究で使用する用語を定義しておく。

**両回在籍** 昭和59年3月および昭和56年3月の両調査時点で在籍した患者。

**今回在籍** 昭和56年3月に在籍せず、昭和59年3月に在籍した患者。

**前回在籍** 昭和56年3月に在籍し、昭和59年3月に在籍しなかった患者。昭和56年4月から昭和59年3月までの間に、転医、死亡、移植等のあった者である。

**一時在籍** 昭和56年3月末（前回）以降に入籍し、昭和59年3月末（今回）以前に離籍した患者。以下に医療保険の略記号を示す。

**本** 本人。被保険者。

**家** 家族。被扶養者。

**共** 共済組合。

**組** 組合健保

**政** 政管健保

**健** 被用者医療保険（社会保険）

**国保** 国民健保

**生保** 生活保護。

「**継続**」被用者医療保険における継続療養の給付。

**任継** 社会保険の任意継続。

記載例は次の通りである。

**組本** 組合健保被保険者

**政本** 政管健保被保険者

**健家** 社会保険被扶養者

**健本**「**継続**」社会保険本人についての継続療養。

社会復帰の成功度は次の5階層に分類した。

分類の判定は医師が行った。

社復に成功

社復にやや成功

中間

社復にやや成功せず

社復に成功せず

勤務先を次の6通りに分類する。

**役所** 国、自治体の職員。教師を含む。

**上場企業** 株式を上場する企業、およびそれに類似する規模の企業（例えば、生命保険、鉄道弘済会）、公社、公団、公庫等。

**中小企業**

**地元零細** 地元にある零細企業。中小企業との境界は必ずしも明確ではない。

**自営** 会社組織であって、医療保険が政本であっても、実質的には自営とみなしうる個人経営に近い企業を含む。

**親族関係** 親、妻、兄弟姉妹等の親族の経営する企業。障害者の就業にある程度のウエイトを有している。

### 統計表の分析 60歳未満男子

作成された統計は、表1から表12までの通りである。表1は総括表、表2から表6までは、60歳未満の男子に関するもの、表7と表8が60歳未満の女子に関するものである。表9、10、11は60歳以上の年齢層に関するもの、表12は一時在籍の表である。以下、順を追って検討を行うこととする。

表1は得られた全データの表であり、昭和56年3月末（前回）から昭和59年3月末（今回）までの間に、この医療機関で透析を受けた全患者を示している。前回と今回の調査時点の中間に透析を受けた患者も「一時在籍」として含まれている。60歳以上の透析患者は1/4弱のウエイトを占めているが、男子に大きく偏っている。この偏りが、医学的なものか、社会的なものかは、このデータからは分らない。

表1 透析患者総数

(単位:人)

		男	女	計
60歳未満	両回在籍	82	85	167
	今回在籍	64	50	114
	前回在籍	25	16	41
	計	171	151	322
60歳以上	両回在籍	25	9	34
	今回在籍	30	7	37
	前回在籍	16	7	23
	計	71	23	94
一時在籍		47	24	71

注)今回 昭和59年3月末 前回 昭和56年3月末

表2は両回在籍者および今回在籍者、すなわち昭和59年3月末の在籍者について、60歳未満の者の医療保険および社復成功度別人員を示したものである。被扶養者になっている人、および生活保護受給者の割合が高いのは当然であるが、被用者本人と国保との比率は全国平均に大体近い。共済

組合のウエイトがかなり高くなっていると思われる。

社復成功度別にみると、「社復にやや不成功」と「不成功」を合わせて31人で、全体の2割強である。糖尿病等の合併症がある場合は、視力の低下等の障害も加わって、社復に困難を来す場合が多いと思われる。表2は60歳未満男子の総括表であって、その内訳が表3および表4のクロス表で

ある。

表3は昭和59年3月末(今回)の年齢別に見る表であって、表4は透析を始めた時の年齢別に見る表になっている。第3表によれば、「社復に成功」および「やや成功」は35~44歳前後にピークがあるのに対し、「社復にやや不成功」および「成功せず」を合併したものは、50歳代にピークがある。特に55歳以上の年齢層に大きなピークがある。

表2 男 昭和59年3月現在 保険別、社復状況別人員

(単位:人)

	被 保 険 者			被扶 養者	国保	生保	計	学生 生徒	社復に 成功	社復に やや 成 功	中 間	社復に やや 成功 せず	社復に 不成功	計
	共 本	組 本	政 本											
0~19					2		2	2						2
20~24				1			1	1						1
25~29	1	1			1		3		3					3
30~34	3	1	3		8		15		10	3			2	15
35~39	2	6	8	1	12		29		11	15	1	1	1	29
40~44	5	7	5	2	8	1	28		11	14	2	1		28
45~49	2	7	1	1	10	4	25		9	8	2	1	5	25
50~54	2	4	2	1	13		22		5	7	1	3	6	22
55~59	5	4	1	3	7	1	21		3	6	1	5	6	21
計	20	30	20	9	61	6	146	3	52	53	7	11	20	146

両回在籍者および今回在籍者

表3 男 昭和59年3月末 透析患者の社会復帰状況 社復成功度別、勤務先別

(単位:人)

昭和59年 3月末 年齢	社復に成功					社復にやや成功					中 間					社復にやや成功せず、及成功せず					学生・ 生徒	合 計	
	役 所	上 場 企 業	中 小 企 業	地 元 零 細 営	自 親 族 関 係 計	役 所	上 場 企 業	中 小 企 業	地 元 零 細 営	自 親 族 関 係 計	役 所	中 小 企 業	地 元 零 細 営	自 親 族 関 係 計	役 所	上 場 企 業	地 元 零 細 営	自 親 族 関 係 計	生 活 保 護	就 業 せ ず 計			
0~19歳																					2	2	
20~24																					1	1	
25~29	1	1		1	3																	3	
30~34	3		5	2	10				3	3									1	1	2	15	
35~39	1	1	5	1	2	1	11	1	2	1	6	5	15								2	2	29
40~44	1	3	2	2	3	11	3	1	1	3	5	1	14	1					1		1	28	
45~49	2	3		4	9	1	2	1	4	8				1	1	2	1		1	3	6	25	
50~54		1		1	3	5	1	2	2	2	7			1	1	2	1			3	9	22	
55~59	1			1	3	2		2	1	1	6			1	1	3	1		1	6	11	21	
計	9	9	12	6	15	1	52	7	4	7	8	21	6	53	1	1	1	3	1	7	1	3	146

が、これはもともと定年に到達し、共済組合の場合には退職年金受給が可能であって、リタイヤする年代であることに留意する必要がある。ただし、担当医によれば、重篤な状態あるいは合併症のため就労困難な場合を除き、働らき得る限り働き、病気の自己管理を厳正に行う方がむしろ経過は良好とのことである。

社復状況は透析開始時年齢別に見ると、若干様相を異にする。表4によれば、「社復に成功」には25～29歳と40～44歳の2つのピークが見られる。「社復にやや成功」は35～39歳と45～49歳の2つのピークがある。いずれも双峰であって、表3では分らなかった事実が浮上してくる。成功しないグループも45～54歳のピークが明瞭となる。これらのピークをさぐるには、勤務先別に表4を観察せねばならぬ。

表4の「社復に成功」の25～29歳のピークは、主として役所と中小企業よりなる。役所の場合は、透析になった場合に内部事務や夜勤のない軽作業に配置換となることが多いようである。役所でも学校の場合には担任や授業負担があるため、透析患者である教師の負担を軽くすると、他のだれかがその分をかぶる事になる（定員に余裕のない場

合）。自治体は比較的寛大な場合が多いように思われる。なお、役所は透析患者を職員に新規採用した例は全くなく、すべて採用後の発病である。この点は上場企業についても同様の事情である。

第2のピークは40～44歳である。この年齢層では上場企業と自営業が大部分である。この上場企業における社復の成功が多いのは、この層に管理職が多く含まれているためである。管理職の人々は意欲が高いこと、そして高い仕事意欲が病気の自己管理の徹底につながるのであろう。社復を成功させる第1のカギは、社復に対する高い意欲を持つことのようなのである。

大きなピークの原因のもう1つは自営業のピークである。一般的に身体障害者の社復の有力なカギの一つが自営業である。例えば午後になってから店を開けばよいような業種であれば、午前中の透析が可能である。「社復にやや成功」において、自営業が大きなウエイトを占めているのは著しいが、ここでは自営業は広い年齢層にわたっている。なお、50歳代では「成功」および「やや成功」が急に低下し、半分以下となる。25～39歳代で透析を開始した人々は、9割が「成功」および「やや成功」に入っている。

表4 男 透析開始時年齢別 社会復帰状況 社復成功率別、勤務先別

(単位：人)

透析導入時年齢	社復に成功						社復にやや成功						中間					社復にやや成功せず、及び成功せず						学生・生徒	合計						
	役所	上場企業	中小企業	地元零細	自営	親族関係	計	役所	上場企業	中小企業	地元零細	自営	親族関係	計	役所	中小企業	地元零細	自営	親族関係	計	役所	上場企業	地元零細			自営	親族関係	生活保護	就業せず	計	
0～19歳																													2	2	
20～24		1			2	3					2	2														1	1	2	1	8	
25～29	4		5	2	1	13				1	1	2							1	1										16	
30～34	2	2	1	1	2	8	1		1	1	5	5	13															1	1		22
35～39			5	1	1	7	3	2	2	2	5	1	15				1			1								1	2		25
40～44		4	1		5	10	1			1	4	6	1	1	1	3		2								1	3	6		25	
45～49	2	2		2	2	8	1		3	2	4	10														1	2	3	2	1	27
50～54	1				1	2		2	1	1		4				1			1		1			1	1	1	4	8		15	
55～59					1	1	1					1		1							1	1				1	1	3		6	
計	9	9	12	6	15	52	7	4	7	8	21	6	53	1	1	1	3	1	7	1	1	3	1	4	6	4	12	31	3	146	

「社復にやや成功」において、「親族関係」のウエイトが案外高くなっている。父の経営する会社、あるいは兄弟の経営する企業に雇用されて、何とかなっているケースである。このケースは、社復にあまり成功していない場合にも高いウエイトを持っているが、「社復に成功」では逆にウエイトは低い。社復に十分成功する人々は、親兄弟にあまりたよらなくてもやって行ける、ということであろう。それでも、「やや成功」において高いウエイトを占めていることは、十分評価する必要があるであろう。

「社復にやや成功せず、成功せず」は45～54歳で多くなる。55～59歳の年齢層の該当が少いのは、表4が「透析開始年齢」で作成されていることと、昭和59年3月末で60歳未満の透析患者が分類集計されているためである。昭和59年3月現在で55～59歳の人々は、表3によれば21人いるが、透析開始時で測ってもなお55～59歳の人は、透析を始めて間もない人に限られるので、表4のように6人に減るのである。

40～54歳の3つの年齢層の「社復にやや成功せず」および「成功せず」の個票を検討してみると、一般的に社復意欲がかなり低いことと、一部合併

症等で重篤な状態のものが見受けられる。事実、この3つの年齢層で、各層から1名ずつ、昭和60年6月までに死亡者が出ている。しかしながら、なまけぐせのある人や、やる気のない人も散見される。上場企業の人が3人いるが、おおむね休職中又はそれに近い状態である。意欲が低く、問題がありそうなのは、生活保護である。いったん生活保護を受けると、医療扶助のみでない限り、自立の道にもどる例はあまり多くはないようだ。もっとも、これらの事は表4だけから読みとることはできない。個票にもどって検討する外ない。

職業上の変化は医療保険の変更をとともなう場合があり、医療保険の変更は医療機関の医事課で正確に把握可能である。そこで、両回在籍の人については、今回と前回で適用医療保険に変化のないものとあるものに分類集計し、同時に今回在籍についても保険別に分けて示したのが表5である。両回在籍82名中、大部分の71名については保険に変化がなく、保険に変化のあるのは11名である。但し、職業に変化があっても、国保同士の変化であれば保険上は変更は起らない。又、保険に変化があっても、職業に変化のない場合もある。表5の「継続」にかかわるものがそれであって、「継

表5 男 今回と前回の医療保険等の変化状況

(単位:人)

	変化なし						変化あり						今回在籍						前回在籍				合計									
	共本	組本	政本	国保	健保	生保	健本	国保	健本	国保	健保	生保	健本	国保	健本	国保	健保	生保	計	共本	組本	政本		国保	健保	生保	計	転医	死亡	移植	CAPD	計
0～19歳				1		1																	1									2
20～24																								1							1	2
25～29																															3	
30～34	1		1	6		8		1																5	3	1	2			6	20	
35～39		4	4	6		14	1	1																14	3					3	33	
40～44	3	3	4	3	1	14	1		1			1												11	1					1	29	
45～49		2		6	1	9	1			1														2	14	1	2		1	4	29	
50～54	2	2		8		12																			10	2	2			4	26	
55～59	3	3		5	1	13		2	1																5	2	4			6	27	
計	9	14	9	35	2	71	3	4	2	1	1	11	11	16	11	19	5	2	64	13	9	2	1	25	171						171	

続」のものは、前回以前にすでに退職等の職業上の変化が起ってしまっている。「変化あり」の11件中5件が「継続」にかかわるものであるから、「継続」は約半分近くのウエイトを占めることになる。

変化のあった11件は顕著な傾向を示している。健本「継続」の期限が切れて、国保、生保に行く場合、および健本から国保や健家になる場合である。一般に役所、大企業、中企業は透析患者を仲々新規採用したがる傾向があるため、このような傾向ができる。健本から国保への変更の背後には、発病のために正社員から外してパートや嘱託に切替える、あるいは下請零細企業（国保適用）へ出す、等々の企業の取扱いがほのかに見えて来

る。なお、「変化なし」の方に入っている人々の中でも、窓際にやられたり、休職扱いになる人々もいるであろう。透析患者は、透析さえ受ければ健常者と同様に働ける場合が多いのだから、このような取扱いを患者が受けるようなことの無いような施策が必要と考えられる。

表5は医療保険が前回と今回で変更のあったものを示したが、個票に一つ一つ当って一時在籍者以外の全員について、透析開始以来勤務先等に変化があったものを、ひろえる限りひろったのが、表6の26件である。これによれば、前回調査時点ですでに「継続」になっており、退職の事態が発生してしまっているものが6件あり、かなり大きなウエイトになっている。これらの実態は、統計

表6 男 勤務先に変化のあったもの

(単位：人)

		25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	計
両 回 在 籍	昭56.3月と昭59.3月で勤めが異なるもの		2	2	2				6
	昭56.3月以前の勤めの変化			1	1	1	2	1	6
	昭56.3月で保険が「継続」		1	1	1			3	6
	パート化				1	1			2
今回在籍		1	1			1		1	4
前回在籍			1	1					2

表を観察する丈では把握できないので、後で全ケースを簡単に示すことによって、その実態のアウトラインをつかむこととしよう。

#### 統計表の分析 女子および老人

女子の総括表を表7に示す。医療保険では健家が多いこと、就業状況では主婦が多いことは当然であろう。但し、主婦業がどの程度行われているか等の、深度を要する事項については、医療機関側では分り難いので、これらの点については問題は将来の研究にゆだねられる。両回在籍および今回在籍の合計人員分布において、男子の分布（表2）と比較すると、男子の分布は35～44歳に山があって、高齢層でなだらかに低下するのに対し、

女子の分布は40～44歳にかなり高い山があって、それから高齢に近づくにつれて、いったん半分以下に急減する。60歳を超えると、表1で観察したように、男女差は大きく開いてゆく。

表8に女子の職業成功度別と勤務先別のクロス表を示す。この表だけから女子の職業成功度の内容は十分には明らかにならない。後で「職業に成功」のケースを示す。ケースと表をあわせて判読する心要があろう。

表7 女 保険, 就業成功率, 就業状況等別人員

(単位:人)

昭和59年3月 年齢	医療保険							就業成功率					就業状況				在籍			前回在籍					
	共 本	組 本	政 本	国 保	生 保	「継 続」	健 家	計	成 功	や や 成 功	中 間	や や 不 成 功	計	主 婦	就 業	生 徒	非 就 業	計	両 回	今 回	計	転 医	死 亡	C A P D	計
0～19歳					1		1	2							2		2	1	1	2		1			1
20～24				1			1	2	1			1		1	1		2	2		2		1			1
25～29		1		1			1	3		1	1	2	1	1		1	3	1	2	3		2			2
30～34		1	1	3			7	12	2	1	1	4	6	4		2	12	7	5	12	3				3
35～39		1	2	10			12	25	1	3		4	20	4		1	25	16	9	25	2	2			4
40～44	1	1		12	1		17	32		4	1	5	23	5		4	32	26	6	32	1		1		2
45～49	1		1	6	1	2	16	27		3		3	20	3		4	27	16	11	27		1			1
50～54	1			6		1	7	15	1	1	1	3	12	8			15	7	8	15		1			1
55～59			1	8			8	17	1			1	15	1		1	17	9	8	17		1			1
計	3	4	5	47	3	3	70	135	5	13	4	1	23	97	22	3	13	135	85	50	135	6	9	1	16

表8 女 職業成功率別 勤務先別 昭和59年3月年齢別

(単位:人)

昭和59年3月 年齢	職業に成功						職業にやや成功						中間的			合 計
	役所	上場 企業	中小 企業	地元 零細	自営	計	役所	中小 企業	零細 企業	自営	親族 関係	計	自営	親族 関係	計	
20～24歳								1				1				1
25～29													1		1	1
30～34			1	1		2					1			1	1	4
35～39		1				1		2	1		3				4	
40～44							1		1	1	4			1	1	5
45～49							1			2	3				3	
50～54	1					1				1	1			1	1	3
55～59					1	1									1	1
計	1	1	1	1	1	5	2	3	3	4	1	13	1	3	4	22

両回在籍者および今回在籍者

表9に60歳以上の年齢層の透析患者の医療保険の状況(昭和59年3月現在)と、前回と今回の医療保険の比較を示す。当然のことながら、社会保険本人は大幅に減少して、「継続」、任継、家族、国保へと移行して行く。国保が支配的となって行くのであるが、移行状況は今回と前回の保険の比較で、ある程度うかがい知ることができる。

表10に60歳以上の年齢層の職業状況を示す。男子については、昭和59年3月現在職業をもつ者は両回在籍3名、今回在籍3名の計6名である。このうち、実質的に活動しているのは4名であって、他の2名は名目的に籍がある程度の状態ではないかと思われる。60～64歳の年齢層に固まって存在しているのは、定年退職後関連企業に行く、というようなケースを含んでいることにも一つの原因

表9 60歳以上の透析患者の医療保険

(単位：人)

			男				女			
			60～64	65～69	70～	計	60～64	65～69	70～	計
両回・今回 在籍患者	健康本	2	1		3	2			2	
	健康本「継続」	2			2					
	健康本任継	1			1	1			1	
	健康家		4	4	8		2	1	3	
	健康保	16	14	10	40	4	7		11	
	健康労災	1			1					
計			22	19	14	55	7	9	1	17
医療保険										
両回在籍患者の 医療保険	今回	前回								
	健康保	健康保	6	5	1	12	3	2		5
	健康保	健康本	1	1		2				
	健康保	健康本「継続」	3			3				
	健康保	健康家					1	1		2
	健康家	健康保		1	1	2				
	健康家	健康家		1		1		1		1
	健康本	健康本	2			2	1			1
	健康本「継続」	健康本	1			1				
	健康本任継	健康本	1			1				
健康労災	健康労災	1			1					
両回在籍計			15	8	2	25	5	4		9

注：今回昭59.3月末 前回昭56.3月末

がある。地元の短大で以前から課長としてがんばっている人がここに含まれている。労働意欲は高く、60歳を過ぎててもこの人の場合は立派な現役として活躍している。

今回在籍の3名の有職者のうち1人は地元零細企業で働いている。画家が1人いるが、最近個展を開いているので、実質的な活動があるものと思われる。

前回有職、今回無職の6名のうち、2名は前職が農業である。自営から無業となった人の中には、前回すでに隠居気味で、息子に事業をまかせていた人が含まれている。一般的には、週3回の透析に通いながら仕事をするのは、高齢者にはかなり大きな負担になると思われる。女子で今回有職者は2名である。1名は店番で、電話番号を勤めてい

るらしい。他の1名は息子の会社の役員という形になっている。

表10 60歳以上の透析患者の職業状況

(単位：人)

両回在籍		男				女			
		60～64	65～69	70～	計	60～64	65～69	70～	計
今回	前回								
有職	有職	3			3	1			1
無職	有職	3	1	2	6	1			1
両回在籍計		6	1	2	9	2			2
今回在籍有職		2		1	3	1			1

前回在籍し、今回在籍しなかった透析患者の状況を表11に示す。転医は男女それぞれ1件ずつで、



他は全部死亡である。表12に一時在籍透析患者の状況を示す。一時在籍は、昭和56年4月以後この透析医療機関にかかり、昭和59年3月以前に離籍

表11 前回在籍透析患者の状況 (単位：人)

	男				女			
	60~ 64	65~ 69	70~	計	60~ 64	65~ 69	70~	計
転 医	1			1	1			1
死 亡	5	6	4	15	1	2	3	6
前回在籍計	6	6	4	16	2	2	3	7

注：前回 昭和56年3月末

した、短期間の透析患者であって、全年齢層について合計したものが示されている。男子に転医が多く、女子に転医が少ないことが目立つ。男子は女子のほぼ2倍の該当があるが、転医は3倍ある。

表12 一時在籍透析患者の状況

	男	女	計
転 医	28	9	37
死 亡	19	15	34
計	47	24	71

### ケースの検討

社会復帰の実態把握には、統計表とケース検討の両方の接近が必要である。ここで①から④⑥までのケースを紹介する。①から②⑥までは、表6に示された透析患者の全部についてである。勤務先に変動があることは重要と考えられるので、表6の26例を全部ここに紹介することとする。②⑦から④①までは男子の「社復に成功」例の一部であり、④②から④⑥までは、同様に女子についての「社復に成功」例の一部である。

#### 25～29歳

- ① 今回在籍 組本 大阪の会社にいたが、発病したので実家のある関東に帰った。大手スーパー（大阪証券取引所の上場会社）の店員。昭和56年7月から透析。

#### 30～34歳

- ② 今回在籍 組本 前の出版関係の会社を退職。広告ディスプレイの会社に就職。昭和58年11月から透析。
- ③ 前回在籍 在籍中は政本であった。元プログラマー。大手町の大手コンピュータ会社に再就職成功。都内の通勤の便の良い所へ転医。昭和56年2月から透析。
- ④ 両回在籍 昭和59年3月国保、昭和56年3月国保。昭和56年3月は農業。21歳で発病、Cal 代謝異常。意欲はあるが就業は無

理な状況。昭和50年4月から透析。

- ⑤ 両回在籍 昭和59年3月国保、昭和56年3月政本「継続」。以前タクシーの運転手をしていた。政本「継続」はタクシー会社当時のもの。現在産業廃棄物処理会社を友人とやっている。昭和52年7月から透析。
- ⑥ 両回在籍 昭和59年3月国保、昭和56年3月政本。会社の事務職員。たいへん元気で仕事意欲も強い。元は同業他社の事務職員。時間の制約と健保のため、会社を変えた。透析患者を受入れない健保組合があるため昭和53年5月から透析。

#### 35～39歳

- ⑦ 前回在籍 昭和56年3月組本。以前は信用金庫の事務。しかし貧血ぎみで、休職期間が切れて退職。妻の兄弟の経営する会社に就職、便の良い所に転医。昭和56年3月から透析。
- ⑧ 両回在籍 昭和59年3月国保、昭和56年3月国保。昭和56年3月は建築業。その後姉の夫の会社に就職。昭和50年5月から透析。
- ⑨ 両回在籍 昭和59年3月政本 昭和56年3月政本、その後国保となる。商社にいたが、退職して現在シナリオのフリーライター。昭和56年3月から透析。

- ⑩ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月組本「継続」。以前は上場大企業に勤務していた。会社は自分で退職。妻が八百屋で, 本人はトラックでまわって販売。昭和52年4月から透析。
- ⑪ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月国保。昭和56年3月は建設関係の国保組合。その後退職して, 設計事務所を自営。元気である。昭和53年7月から透析。

#### 40～44歳

- ⑫ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月組本。残業不能ということで職を転々としている。現在荷物の宅配のパート。成功している。昭和50年4月から透析。
- ⑬ 両回在籍 昭和59年3月組家, 昭和56年3月組家。昔は大手玩具メーカーの下請会社勤務。現在玩具の下請を自営でやっている。内職程度と思われる。妻は証券会社勤務で, 妻の被扶養者になっている。昭和52年12月から透析。
- ⑭ 両回在籍 昭和59年3月組本, 昭和56年3月組本。カマボコメーカーの販売嘱託。以前は本務であったが, 休むこと多く嘱託となる。スーパーをまわって販売している。カゼをひきやすく, 感染症に弱い傾向がある。しかしがんばって成功している。昭和55年3月から透析。
- ⑮ 両回在籍 昭和59年3月生保, その後国保となる。昭和56年3月日雇本人「継続」。以前は中企業に勤務していたらしい。透析に入って退職。生活保護は半年位の適用。兄の仕事の手伝いで, 造花業で成功し, うまくいっている。昭和51年12月から透析。
- ⑯ 両回在籍 昭和59年3月健家, 昭和56年3月組本。昭和56年3月頃は部品製造卸販売会社勤務。透析に入った後退職。妻はパートで働いている。現在, 洗濯物を預って大手業者に届ける窓口屋を自営。昭和50年4月から透析。
- ⑰ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3

月組本。日本橋の食堂勤務。パートになったらしい。昭和53年11月から透析。

- ⑱ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月国保。昭和50年頃は健本であった。現在印刷会社の下請けで, 自営のような感じ。しかし親会社には年中行っている。昭和50年5月から透析。
- ⑲ 今回在籍 昭和59年3月生保。透析に入る前は自動車修理工。糖尿病があり, 糖尿病性白内障。透析に入ってから退職し, 生活保護適用。昭和58年4月から透析。

#### 50～54歳

- ⑳ 両回在籍 昭和59年3月共本, 昭和56年3月共本。以前自治体の職員で, 自分で退職した。訴えの多い人で, 「腹が痛い」といって来て, 生理的食塩水を打ってもらって, 治って帰る。病気に対してなげやり。昭和59年末に死亡。昭和50年3月から透析。
- ㉑ 両回在籍 昭和59年3月組本, 昭和56年3月組本。上場大手会社勤務であった。昭和56年3月は休職中。午前中の透析で, 入院の繰返し。昭和48年3月から透析。

#### 55～59歳

- ㉒ 両回在籍 昭和59年3月健家, 昭和56年3月組本。昭和54年の発病で, 「継続」期限が切れて健家となる。昭和56年から無職。昭和54年10月から透析。
- ㉓ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月組本「継続」。大手企業勤務であったが, 50歳で退職し, 現在まで何もせず。「継続」が切れて国保へ。昭和54年3月から透析。
- ㉔ 今回在籍 昭和59年3月共本。大手企業に勤務していた。自分で退職し, 地元の関連会社に転職したが, 身体がきつくて結局退職し, 現在無職。昭和60年6月現在国保。昭和59年2月から透析。
- ㉕ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月政本「継続」。昭和51年透析導入。元役所勤務。定年退官後, 地元の会社勤務。今は退職している。昭和51年7月から透析。

- ②⑥ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月国保。元教員。年金がついているので, 現在全く何もせず。昭和53年11月から透析。

#### 30～34歳

- ②⑦ 今回在籍 共本。自治体職員 元気である。昭和58年12月から透析。
- ②⑧ 今回在籍 政本 測量士の資格を持っているので, 測量設計事務所勤務。昭和58年11月から透析。昭和59年11月移植した。
- ②⑨ 今回在籍 共本 自治体職員。透析に入る前は夜勤もある部署であったが, 透析導入後は日勤の部署に配置換となった。昭和57年10月から透析。
- ③⑩ 両回在籍 昭和59年3月共本 昭和56年3月共本。自治体職員である。昭和50年11月から透析で, 長い患者であるが, 役所で目いっぱい仕事をしている。仕事本位で早退なく, 18時から透析。内部事務担当。

#### 35～39歳

- ③① 両回在籍 昭和59年3月政本, 昭和56年3月政本。昭和48年6月から透析。精密バネ工場勤務。きわめて熱心で, 18時ぎりぎりまで仕事をしてくる。患者の手本ともいえる立派な人である。

#### 40～44歳

- ③② 両回在籍 昭和59年3月組本, 昭和56年3月組本。昭和50年1月から透析。ずーっと上場大企業勤務。事務系職員で仕事意欲は高い。本センターにおける唯一の家庭透析である。家庭透析は健保が当県では認められないため, 全額病院の研究費ということで経費を落している。病院スタッフが行って, 30分位面倒を見ている。
- ③③ 両回在籍 昭和59年3月共本, 昭和56年3月共本。昭和48年6月から透析。中央官庁の職員。10年以上になるが元気で意欲は高く, 現場にもよく出てやっている。

#### 45～49歳

- ③④ 両回在籍 昭和59年3月組本, 昭和56年3月組本。昭和55年9月から透析。大企業の

獣医で要職にあり。ファイトあり, 元気である。

- ③⑤ 今回在籍 共本 自治体職員 昭和59年3月から透析。出先機関の副所長である。
- ③⑥ 今回在籍 組本。銀行支店の課長。昭和56年7月から透析。問題なし。
- ③⑦ 今回在籍 共本。中央省庁の出先機関に勤務の管理職。仕事はきびしいようだが本人は元気でやっている。昭和59年3月から透析。

#### 50～54歳

- ③⑧ 今回在籍 国保, 幼稚園のバスの運転手。自宅は地元のふとん屋である。昭和54年12月から透析。
- ③⑨ 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月国保。建具屋を自営。工務店の下請けで, 主として工務店との契約でやっている。昭和50年12月から透析。

#### 55～59歳

- ④⑩ 両回在籍 昭和59年3月共本, 昭和56年3月共本。小学校長である。元気で意欲十分, 校長の激務をキチンとこなしている。病気の自己管理も良好。昭和54年12月から透析。
- ④① 今回在籍 政本, 地元の不動産会社社長。昔の地主で農家出身。ベンツに乗ってがんばっている。昭和57年12月から透析。

#### 30～34歳

- ④② 両回在籍 昭和59年3月国保, 昭和56年3月国保。そば屋の店員。パートである。結婚して第1子妊娠中に昭和54年4月透析に入った。
- ④③ 両回在籍 昭和59年3月組本。昭和56年3月組本。本人は調理士であるので, 厨房勤務であったが, 昭和52年3月透析導入となったので, 会社側の配慮で食堂から事務に配転。会社の課長は盆暮に病院にあいさつに来る。

#### 35～39歳

- ④④ 両回在籍 昭和59年3月組本, 昭和56年3月組本。上場会社職員。バリバリやっ

る猛烈型仕事OL。入院すると、毎日何回も会社から電話が入る。本社は長野県にあり、本人は長野県まで行き来している。昭和54年6月から透析。

#### 50～54歳

- ④⑤ 両回在籍 昭和59年3月共本、昭和56年3月共本。中央省庁職員。ずーっと霞が関の本省勤務である。昭和54年10月から透析。

#### 55～59歳

- ④⑥ 両回在籍 昭和59年3月政本、昭和56年3月政本。代々、学校給食用パンを製造している。元気で、昼間は仕事で多忙。夫は死亡している。娘は喫茶と貸ビルを経営。昭和54年12月から透析。

### 個票の検討結果

全個票を検討して得られた一般的傾向をここにまとめてみよう。透析患者の社復は、障害者の中では比較的可能な方に属すると考えられるが、実態はかなりきびしい。以下、一般的な傾向と、今後の社復を推進するための対策を考えてみることにする。

1. 官公庁、上場企業で透析患者を新規採用した例は少い。(ケース①は転勤の可能性がある。ケース③が唯一の例)。役所や上場企業の職員である透析患者は、採用後の発病と思われる。
2. 役所の場合、軽作業に配置換えをしてくれることがある(ケース②⑨)。大企業の場合、いわゆる「窓際族」扱いする例もある。「1年間給料は出すから、入社するに及ばず」という上場企業もあった。自治体や上場企業で、午前中透析の患者が若干見受けられた。患者が教師の場合、透析日に授業負担を外している学校も見受けられた。要は程度の問題であろう。重度の障害なのだから、患者に無理な負担にならないような配慮がなされるのは喜ばしいが、過度にわたることは窓際族化につながるの、好ましくないと思われる。
3. 学生時代に透析に入った人々の就職はきわめて困難である。成功例は少く、セールスマンや塾

の自営等で成功している。ただし、若い人達を完全に親がかりにする事は、むしろ本人のやる気を失わせ、スポイルすると思われる。

4. 中企業への就職は、案外困難のようである。透析日の早退は、その分賃金が差引かれる。嘱託、パート等、正社員から外される場合があり、営業は歩合の契約となることもある。零細企業の方がまだましである。面倒見の良いケースもある。経理事務等を自宅でやるケース(女子)が若干あった。

5. 社復を成功させるのに、技能や資格が有効な場合がある。ケース③の男子プログラマー、ケース②⑧の男子測量士、ケース③④の男子獣医等が例である。今後はコンピュータ技術は求人が多いから、障害者の社復にコンピュータ・ソフトウェアの技能修得は有望である。自宅でも作業可能で、通信回線で会社に伝送できる点も障害者の社復に向いていると思う。

5. 親族関連も社復には重要と思われる。ケース⑦の男子、ケース⑧の男子、ケース⑩の男子等が代表的な例である。患者の病気に対応した勤務が可能な場合が多いが、本人も易きに流されないような努力が必要であろう。60歳以上の高齢層の所でふれたように、軽い仕事、例えば電話番号でもいいから、積極的に行った方があらゆる面から考えて、良いであろう。

6. 役所、大企業、学校の管理職の人で、うまく行っている例がかなり見受けられる。ケース③⑤の男子副所長、ケース③⑥の銀行支店課長、ケース③⑦の男子の中央省庁勤務者、ケース④⑩の校長等、この例は豊富である。管理職の人は、一般に責任感が強く、やる気十分であって、自分がやらねば、という気持があり、これが障害をのり越える力になっている。同時に、この気持のあることが、病気の自己管理の徹底化につながるのであろう。透析患者本人の自己管理は基本的と思われる。

7. 担当医の言によれば、社復に成功している人ほど医学的に良い、ということである。逆に医学的に良い場合、社復が成功し易い傾向はあるが、医学的にはそれほど悪くないのに、意欲が低くて

社復にあまり成功しない人もいる。社復の成功が原因で、医学的に良好な状態の保持が結果である場合が多い、ということなのである。因果関係の論証はさておき、担当医の判断によれば、上記の通りなのである。そして社復への意欲は自己管理の徹底につながる。なお、担当医の話によれば、自己管理の良否は学歴とは無関係、ということである。一流大学を卒業している患者であって、わがままで担当医のアドバイスをあまり受け入れず、自己管理の良くない人が若干いるようだ。

8. 患者が病気に逃げ込まないことも重要のようである。なまけたい時に病気のせいにしたり、努力しないことを病気のせいにしたりする人が見受けられる。透析や成人病は慢性病だから、たゆまない生活管理と自己規制が必要とされる。生活保護受給者の中には、努力のたりないと見受けられる人もいうことである。一度生活保護を受けると、そこから抜け出すのは努力を要するようだ。女性の場合、離婚に至ることがある。離婚すると、生活保護ケースが多い。前述のように、糖尿病、高血圧その他の合併症の状態によっては、透析だけではすまないの、社復できる状態にない人々もかなりのウエイトで存在している。

9. 透析患者の新規就職は困難で、地元の零細企業や自営業の場合が多くなる。社復に成功している人々の大きな部分は、すでに役所や企業に勤務していて、そこで発病したケースである。このような場合、新規就職が困難であることから考えて、現在勤務している企業から離れることは禁物である。実際には、職場第一主義の透析患者が大部分である。会社に支店・出張所が数多くある場合は、患者の自宅付近に配置換してくれる企業もある。

一般的に、透析機関は職場の近くよりも、むしろ患者の自宅近くが望ましい。夜中に合併症等で治療を要することがあり得ることと、透析終了後帰宅する便のためである。このためには、サテライト透析機関が十分な密度で各地に分布していることが、透析患者の社復にとって必要である。地価が高いため、都市から離れた所にしか透析医療機関が設置されないと、透析患者の社復に大きな

障害となる。

特に問題があるのは過疎地の場合であって、透析日にバスに乗って遠くの透析医療機関まで出かけなければならない時は、透析だけで一日がかりとなってしまう、社復どころではなくなる。又、過疎地においては大規模化が困難のため採算性の悪い所もあり得る。このような所はむしろ育成して、社復の推進をはかる施策を講じるべきであろう。事実、地方に於ては、県庁所在地のような雇用機会が多く、かつ人口が十分ある所で社復成功の割合が高くなっている。

10. 一部の健保組合で、透析患者を新規には受入れられない所があるようだ(ケース⑥)。たしかに透析患者を新規に受け入れると健保財政が悪化するが、この点については何等かの対策が必要と思われる。